

アメリカの臨界前核実験に抗議する

2012年12月10日
核戦争に反対する医師の会

12月6日、アメリカ・エネルギー省所属のNNSA（核安全保障局）は、12月5日に西部ネバダ州で核爆発を伴わない臨界前核実験を1年10ヶ月ぶりに行ったと発表した。私たち「核戦争に反対する医師の会」は、人類が生み出した最悪の非人道的兵器である核兵器の廃絶こそ人類が進むべき道と考えており、同実験に強く抗議する。

実験は「核なき世界」を掲げたとされるオバマ政権で4回目となる。米国は、1992年に核爆発を伴う核実験の一時停止を宣言したが、1997年に臨界前核実験を行い、今回で27回目となる。オバマ大統領は世界に核兵器が存在する限り核戦力を保持する方針の下、核兵器の近代化をすすめている。

実験は、プルトニウムに高性能の爆薬を爆発させて強い衝撃を与え、その反応を調べるものとされ、NNSAは今回の実験について「保有する核兵器の安全性や効率性の維持のための科学的なデータを得られるだろう」と述べた。実験は、核兵器の廃絶に向けて、核兵器禁止条約の速やかな交渉の開始を呼びかけている世界の国々・諸組織への重大な挑戦であり、核のない世界を望む世界の人々の大きな怒りをかっている。

本会は世界の核兵器の廃絶を願う人々ならびに諸組織と共同して、今後もあらゆる核実験の実施に抗議していくものである。

以上